

第 21 回 NOMURA Award (特別賞) 受賞者コメント

お茶の水女子大学附属中学校 寺本 誠 教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

初めて参加したのは 2013 年度でした。当時の中学 2 年生の生徒たちが日本経済新聞に掲載されていた広告を持ってきて、参加したいから顧問になってほしいと依頼されたのがきっかけです。その年に入選したことから、同じ生徒たちが中学 3 年時に再度挑戦し、審査員特別賞をいただきました。後輩たちもその姿を目標にし、それからほぼ毎年参加・入選する流れができました。中学校では経済の学習は 3 年生になってからです。経済の知識がほぼ無い状態からスタートし、試行錯誤しながらレポートを仕上げるまで成長していくことが本当に嬉しく、誇りに思います。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

顧問としての関わりは最小限にし、何かを強制することはありません。あくまでも成績評価には関係ない、自主的な取り組みという扱いです。ただ、本校は普段の授業から協働して探究する機会を大切にしていますので、チームを組んで自主的に活動することには慣れていると感じます。参加した生徒たちが高校でも挑戦してくれること、そしてその高校生たちが後輩のために来校して自分の経験を踏まえながらアドバイスしてくれる慣習は本校の良い伝統だと思います。大学で経済学部に進んだ卒業生もおり、生徒たちの可能性を拡げる機会になっていると実感します。

参加を終えて

本校は中高一貫校ではありませんので、受験と並行して行うことが非常に難しいと感じています。レポート執筆の追い込みの時期は受験直前期と重なります。同じような悩みを抱えている先生方は多いのではないのでしょうか。レポートを提出するだけでも素晴らしいことであると認め、受験を優先するために途中で取り止める判断も必要と伝えています。生徒がプレッシャーを感じることなく、伸び伸びと楽しめる環境をつくってあげることが顧問の役割だと思っています。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

第 21 回 NOMURA Award (特別賞) 受賞者コメント

ぐんま国際アカデミー中高等部 桐生 朋文 教諭

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

社会科教員として政治や経済を教えていた中で、投資について「ギャンブル」「危ない」「やらない方がいい」といったイメージを漠然と抱いている生徒が多くいることに気付きました。教員になる前は金融機関に勤めていたこともあり、「株式投資は生きた経済を学ぶ手段であるとともに、社会参画の手段の一つ」ということを伝えたいと考えて、本校に赴任して1年目から、課外活動という形で希望する生徒を募って参加してきました。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

参加し始めたばかりの頃は、株式投資について知っている生徒はほとんどいなかったため、放課後に集まって「そもそも株とは何か?」といった勉強会を開いていました。最近では中学3年生～高校2年生の生徒を中心に毎年3～5チームくらいが参加するため、先輩から後輩にコツや流れが伝わっており、私は求められたときにアドバイスをする程度になっています。参加生徒の中には、大学入試で日経 STOCK リーグでの取り組みをアピールし、経済学部に進学した生徒もいます。

参加を終えて

日経 STOCK リーグは、経済・金融教育にとどまらず、キャリア教育としても大きな意味があると感じています。生徒達にはレポート作成の中で実際に企業を訪問し話を聞くことを奨励していますが、自分たちの決めたテーマに沿って訪問企業を選び、練りに練った質問をぶつける経験は、生徒が会社と社会の関係を学ぶ素晴らしい機会であると感じています。例えば、アフリカとのつながりについてある企業にヒアリングを行った生徒達からは「会社のイメージが全く変わった」「働いている方の熱意に感動してこの会社のファンになった」といった感想が聞かれました。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

第 21 回 NOMURA Award (特別賞) 受賞者コメント

大阪経済法科大学 深瀬 澄 教授

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

当初は「経済統計学」の授業で、経済指標と簡単な経済予測を教え、ゼミでは「総合政策科学」と称し、テーマを問わずデータ分析に基づく研究を指導していました。証券会社から金融教育の寄付講座の話を頂戴して授業科目を新設し、講義のコーディネータを担当したのを機に、統計学を資産運用に応用してみようとゼミで日経ストックリーグに参加しました。当時はまだ株式投資を教える大学が少なく、週刊誌でも紹介されました。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

市況が好調な時期ほどリスクの説明を心がけました。行楽シーズンも遊ばずにアルバイトに励んでいたゼミ生は、チームで日経ストックリーグに取り組み、人生観が変わったといいます。「労働」だけでなく「資本」も生産要素であることに気づき、資産運用にも目を向けるようになり、その仕組みを理解しようと生まれて初めて経済や金融を真剣に学んだそうです。就活では、この体験談が面接官に響いたらしく、狭き門の金融業界に就職できました。

参加を終えて

学生の構想力を伸ばすには、緻密に考えさせる必要がありますが、枝葉を拡げ複雑に考えがちです。積極的な学生ほど自分の考えを通そうとしますが、受け入れられずに険悪なムードになるチームもありました。最近の学生は不本意なままに譲歩するようだが、修羅場を経験し、回り道をしながら、いたって単純な本質の部分に到達できたチームのメンバーは大きく成長し、結束を強めるようです。火消しのタイミングの見極めが難しいです。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

第 21 回 NOMURA Award (特別賞) 受賞者コメント

創価大学 中村 みゆき 教授

受賞コメント

日経 STOCK リーグ参加の経緯

ゼミで社会的責任投資や ESG 投資をテーマに取り組んでいることから、その能動的学びの一環として参加してきました。また学生が社会的視点や歴史的スパンの中で企業とは何かという命題に取り組む機会となり、思索できることも参加する意義が大きいと思います。学部では証券市場論の講義を担当していますが、学問として証券理論を理解することと現実の証券投資を行うことは乖離しており、講義の中でその繋がりを理解してもらうことは苦心する点です。その視点からも企業を分析してポートフォリオを組む日経 STOCK リーグに参加することは、学生たちが企業と真摯に向き合い、本来の投資や金融のあり方を理解していくために有益な機会だと考えています。

日経 STOCK リーグの取り組みについて

日経 STOCK リーグの参加を活用して、我がゼミの指針である社会科学の学びを身につけることを実践しています。それは、社会の中にある答えのない問題を見つけ出して解決に対する筋道を考え、そのプロセスで仮説を立ててエビデンスを示して検証していくという基本的な研究手法を身につけていくことです。またほとんどの学生は会計、金融系の授業を複数履修しますので、これまでに学んだ知識を活かしてもらうことも意識しています。取り組みの流れは、3 年春学期には皆で専門書数冊を読み込み、夏休みに入る時期から STOCK リーグに本格的に挑戦していきます。夏休みの合宿は、先輩も混じり数日間密度の濃い学びの時間を過ごし、少しずつ学びとは何かに気付いていきます。独創的研究を初めて体験した学生たちは、大変な苦勞をして最終的に論文として結実させると、皆で喜び合っています。

<https://manabow.com/sl/result/index.html>

参加を終えて

これまで10回ほど参加して複数回入選させて頂きました。そのためか、ゼミ選考段階で日経 STOCK リーグへの参加を希望する学生も多くいます。そういった学生の多くは就職先に金融機関を志望してきますが、最終的にはゼネコンやコンサルなど自分の志向性にあった企業に決まることも少なくありません。これは学びのプロセスで思考する力を身につけたものと実感しますが、学生にとっては思うように進まず大いに苦しんだ経験こそが力となっていると思います。歴代のゼミ生たちは、皆、粘り強い学びを行い、またチームで誰一人取り残さないという思いを持ち協働で学んできました。入賞に関わらずとても良い研究をしたチームも沢山ありましたし、その後の原点になっていると確信します。今回、こうしたゼミ生達が素晴らしい賞を授けてくれたことは大変嬉しく感謝したいと思います。